



国際会長 (IP) Joan Wilson (カナダ)

“Our Future Begins Today”

「私たちの未来は、今日より始まる」

アジア地域会長 (AP) Tung Ming Hsiao (台湾)

“Through Love, Serve”

「愛をもって奉仕をしよう」

東日本区理事 (RD) 利根川 恵子 (川越)

「明日に向かって、今日動こう」

“For the Future, Act Today!”

湘南・沖縄部部長 (DG) 若木 一美 (横浜とつか)

「あなたが退会しない理由は？」 ~明るく・楽しく・元気よく~

横浜クラブ会長 (CP) 金子 功

「YMCA とともに！」

“Together, with YMCA!”

会長 金子 功  
副会長 舟田 正夫  
書記 伊藤 誠彦  
会計 古田 和彦  
直前会長 松島 美一

監事 松島 美一  
ブリテン 高田 一彦  
担当主事 青木 一弘

### <今月の聖句>

金子 功

見よ、新しいことをわたしは行なう。  
今や、それは芽生えている。  
あなたたちはそれを悟らないのか。  
わたしは荒れ野に道を敷き 砂漠に大河を流れさせる

イザヤ書 43章19節

を商品券や金券に交換、または寄付できる制度を導入している。横浜市の「よこはまウォーキングポイント事業」「よこはまシニアボランティアポイント事業」なども紹介されていた。

多くの市民に自ら健康づくりを促すためのインセンティブとしてポイントを与えることは悪いことではない。問題はその紹介の仕方だ。

なぜ、「歩くことがお得につながる」「ポイントを貯めて景品をゲットしよう」と言うかわりに、「ポイントを貯めて健康になり、それを寄付することが社会貢献になる」とような表現が用いられないのか。

若し、「お得な制度」として紹介しないと視聴者の関心をひけないと考えているのであれば、公共放送の担い手としてNHKは随分日本国民を馬鹿にしていると思うし、日本人の品性を貶める行為だと思う。

言葉は人格を形成するので、多くの人達に良い言葉、品のある言葉をもっと聞かせ続ける必要がある。

「いま発した言葉は『あなた自身の言葉』ですか」。2010年2月15日の日経新聞「あの人とこんな話」の見出しの文言だ。元NHKアナウンサーで、「ラジオ深夜便」、「NHKスペシャル」などで活躍し、女性アナウンサー初代室長を務めた、山根基世(もとよ)さんへのインタビュー記事だ。山根さんは「言葉ってその人自身なんです。記号ではなくて人そのもの」、「毎日食べるおいしいご飯が健康をつくるように、私たちの心は言葉で育てられると思うのです。それを忘れないで欲しい」とありました。

先輩も言っているように、せめてNHKは「損だ」「得だ」の表現の世界と無縁であって欲しいと思う。

### 今月のひとこと

### <お得?>

伊藤 誠彦



最近TVを見ていて気になる言葉がある。やたら「損だ」「得だ」と言う表現が多いことだ。

先日、NHKの団塊スタイル「賢く活用！お得な制度」という番組を見た。地方自治体が展開している高齢者向けの健康促進プログラムなどを紹介したものである。

多くの地方自治体が、医療費抑制などにつながることから、プログラムに参加した人に対して、ポイントを付与し、そのポイント

## <2016年9月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
19名 (功勞 会員1 名を含 む)	メン 11名 メネット 1名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 12名	61 % (メーキャップ 名を含む) 前月修正出席 率	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

## <10月の行事予定>

### 強調月間【EMC/E, YES】

日	曜	時間	行事内容	場所
1	土	13:00	湘南・沖縄部 部会	三浦ふれあ いの村
9	日		東山荘新本館 献堂式	東山荘
13	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
15	土	19:00	チャリティーラン	臨海公園
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
29	土		次期部長・事業主任 研修会	YMCA同 盟会議室

## <9月例会報告>

### 古田 和彦

日 時：9月15日(木) 18:30~20:30

場 所：中央YMCA 501号室

出席者：青木、伊藤、今村、大高、金子、神村メン・メネ、  
古賀、齋藤、野村、古田、松島

台風で1週間延期された例会が古田ワイズの司会により、  
金子会長の開会点鐘で定刻に開始。恒例により、全員でワイ  
ズソング、ワイズの信条の唱和、続いて、古田ワイズが今月  
の聖句を朗読。ゲスト・ビジターはなく、古田ワイズの食前  
感謝、続いて食事。



卓話中の古賀ワイズ

今月の卓話は、古  
賀ワイズによる、「わ  
が故郷 長崎からの  
祈り」。古賀ワイズ  
は長崎生まれ。高校  
卒業まで18年間で  
過ごした。その後、  
上京して大学、卒業  
後長年海運会社に勤

め、現在は海運関係のコンサルティングを行っている。浜っ  
子でクリスチャンの奥様と結ばれ、自身クリスチャンとなり、  
帰省を繰り返す中で、長崎への思いを深めていかれた。

特に、『浦上川』と『日本二十六聖人殉教地・西坂の丘』  
を、祈りをもって訪ねておられる。

『浦上川』は、古賀ワイズの母校、県立長崎西高の目の前  
を流れている。高校生当時は特段の思いはなかったが、年月  
の経過とともに思いは深まっていく。1945年8月9日午

前11時2分、長崎に原爆が投下された。長崎西高は爆心地  
から0.8キロメートル、その前を流れる浦上川には、核分  
裂放射能による3000度にも及ぶ熱線を受け、皮膚の内部  
組織や臓器にひどい衝撃を受け、体内までも焼けたされた多  
くの市民が水を求めて殺到した。ある少女の手記に、「のど  
が渴いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが  
一面に浮いていました。どうしても水がほしくて、とうとう  
あぶらの浮いたまま飲みました」とある。そこで大勢の被曝  
者が亡くなり、また、放射能に汚染された水を飲むことによ  
って『内部被曝』を引き起こした。いま、浦上川では、燈籠  
を浮かべる「万灯流し」がおこなわれ、「平和な世界を！」  
との願いを込めて犠牲者を追悼している。

『日本二十六聖人殉教地・西坂の丘』は、大浦天主堂の向  
かいに位置する。1549年のフランシスコ・ザビエルに始  
まるキリスト教日本伝道は、一時、信徒数60~70万人に  
達し、キリシタン大名も多数生まれ一世を風靡した。しかし、  
時の支配者、豊臣秀吉はキリシタン勢力の拡大を警戒して1  
587年バテレン追放令を出し、キリシタン弾圧に踏み切っ  
た。外国人宣教師6名、日本人修道士・信者18名、合計2  
4名が捕らえられ、1597年1月、大阪・京都で引き回し  
の上、厳冬期、刑場、長崎までの800キロメートルを歩か  
された。道中、2名の信徒が自ら加わり、一行は26名とな  
る。同年2月5日10時ごろ、長崎・西坂の丘で十字架刑に  
処せられた。以降、キリシタン弾圧は激しさを増していくこ  
とになる。船越保武という彫刻家がいる。1912年生ま  
れ。長男を生後8か月で亡くしたことをきっかけにクリスチ  
ャンとなる。キリスト教を題材にした傑作が多いが、196  
2年「長崎二十六殉教者記念像」で高村光太郎賞を受賞した。  
この像が西坂の丘にある。この像には作者名、つまり、「船  
越保武」の名前が記されていない。船越の要望だそうである。

彼は本当に純粋な気持ちで、この二十六体の殉教者に取り  
組んだのだ。船越は次のように語る。「二十六体の一人一人  
を、私は最もその人らしいと自分なりに納得できるまで何べ  
んも作り直した。職業・年齢・生国を調べ、わずか一行足ら  
ずの言行の記録でも、その人の風貌を決めるよすがとなった。  
粘土の原型ができて、その顔がもの言うように思われるまで  
制作を続けた。例えば、聖ヤコブ・喜斎はこの顔、聖ヨアキ  
ム・榊原はこの顔と自分で信じ込むことができるまでに」。

「現実に見るすべもない365年前の殉教者たちの風貌と  
気品に、少しでも近づけようと素朴な努力をした、一人の信  
仰浅き彫刻家の仕事を寛大な目で見ていただけなら幸いであ  
る」。全力を尽くし満足できる作品ができれば、そこに作  
者名はいらないのである。

古賀ワイズの卓話を報告者(古田)は年月を経るごとに深  
まる彼の信仰のあかしと受け取った。平和な世界の実現に向  
けて日々歩んでいる古賀ワイズに敬意を表する次第である。

続いてビジネス。今月はハッピーバースデー該当者がなく、  
ほぼ定刻に閉会した。

ロバ献金12,500円。(熊本Y支援に募金)

## 「第74回Y-Y's協議会報告」

金子 功

第74回Y-Y's協議会が9月13日(火)午後7:00



より横浜中央YMCA 501号室で開かれた。今回は横浜とつかクラブが担当。

開会礼拝は長田光玄担当主事の司会で行われた。田口総主事は挨拶の中で障がい者施設やまゆり荘での事件、AIDS文化フォーラムを引用しながら、YMCAの働きがますます重要であることの認識を述べた。若木部長は、ご本人が最近経験した軽度の脳梗塞から健康には充分留意するようとの警告を挨拶に替えた。

今回のY-Y'sの中心は、現在YMCAが推進している「YMCAブランド・プロジェクト」についてタスクフォースチームのメンバー(横浜YMCA広報担当)の池田直子さんからプロジェクトの背景から今後の取り組みを聞くことであった。池田さんはパワーポイントで分かり易く、YMCAのブランド・コンセプトと言う土台から、今後如何にYMCAの認識を深めていくかとの構想を解説した。

協議・報告事項は浦出昭吉横浜とつかクラブ会長の司会で進められた。

主な報告事項は、1) 会員スポーツ大会、(9/22)、2) インターナショナル・チャリティーラン、(10/15)、3) チャリティーゴルフ(12/16)、各YMCAで計画している秋のバザー等であった。

各クラブ報告では、横浜クラブは①野村郁雄氏の7月入会、②8月の例会兼納涼会、③中央Y/北Y幼児サッカー大会支援の3点を報告した。

当日の出席者：ワイズ側；11名、YMCA側6名；

横浜クラブ出席者：金子

## 「横浜YMCA幼児室内サッカー大会」

高田 一彦

9月22日横浜クラブとつづきクラブの協賛による横浜YMCA幼児の室内サッカー大会が、関内の中央YMCA体育館で開催された。これは中央YMCAと北YMCAに通う幼児サッカー教室の子供達(4~6歳)を対象としたもので、総勢24名のチビッコが集まり50名近くの保護者の応援の下に熱戦をくりひろげた。

開会式では、金子会長が子供目線での挨拶をして始まり、ゲームは、1チーム5名の総当たり戦で1ゲーム7分を競うものであったが、熱気のコもったプレーが展開された。

最初のゲームでは、全く動きがなくゲームに参画出来なかった子供が、ゲームを重ねる毎に元気を取り戻し、ついにはゴールを奪う場面などに観客もヤンヤの声援をおくっていた。子供達のボールに集中してプレーする姿に感動を覚えた。

表彰式では、横浜YMCA CDのCaring, Respect, Honesty, Responsibility の4つのトロフィーが4チームに



チビッコ選手と応援ワイズメン

授与された。また、参加者全員には金メダルが授与され、胸にかけて得意げに父兄のカメラに収まる光景が印象的であった。

閉会の挨拶は、林つづきクラブ会長が子供向けの挨拶をしてしめくりをした。

ワイズからの参加は、つづきクラブの6人と、横浜クラブからは、大高、金子、高田、古田ワイズの4人であった。



表彰式での古田ワイズ

## 「今年の夏休み」

神村 浩正



今年の夏にはパキスタンの首都イスラマバードに家族同伴で赴任している息子の一家が夏休みで帰国してきた。

私自身が約40年前、ロンドンに赴任していた当時は、赴任中に家族同伴で一時期帰国するなんて、考えられないことであったが、赴任先や会社の事情が違うとはいえ、随分変わったものだと驚いた次第である。その息子や孫がジジやババの郷里である鹿児島に行きたいと言ってきた。勿論OKだし、私自身やメネットも鹿児島には随分ご無沙汰しているので一緒に行こうということになった。

鹿児島では私自身の弟もメネットの弟も健在であり鹿児島ワイズメンズクラブの主要メンバーとして活躍中であるが、皆で大歓迎してくれた。

我が家ではパキスタンの息子一家とはスカイプと称するパソコン通信で折りにふれてお互い顔を見ながら会話しているので、遠くに離れて暮らしているという実感がないが、通信事情・交通事情の変化には驚くばかりである。

## 「横浜YMCA熊本・東北復興応援ナイター観戦記」

古田 和彦

9月6日(火)、暑くもなく寒くもなき絶好のナイター観戦日和となった。横浜球場でのベイスターズ対ヤクルトスワローズの一戦である。午後6時開始であるが、その前に、スピードガン・コンテストもあり、田口ワイズも参加した。始球式では東北で被災して神奈川在住の少年が見事ストライクを披露。折から、ベイスターズもクライマックスシリーズに向けて勢いがあり、ゲームは満員御礼の中、5対1で快勝した。昨年は雨の中負ゲームだっただけに、応援席も盛り上がり、ビールの消費量も増えていた。満足の一夜であった。

当クラブの参加者：金子、田口、古田ワイズ。大高ワイズ会費参加。

## 第二例会報告

松島美一

日時：9月22日(木) 15:50~17:00  
(ワイズメンズクラブ協賛幼児室内サッカー大会終了直後に開会)

場所：中央Y 501号室

出席者：大高、金子、高田、平岡(担当主事代行)、古田、松島。

## 協議・確認事項

1. ワイズメンズクラブ協賛幼児室内サッカー大会の評価、反省をした。
2. 10月～12月のクラブ関連行事の予定概要を確認。
3. 10月1日の湘南・沖縄部部会の参加予定者、行事予定等確認。
4. 十勝ワイズポテトの入荷数減少に伴う分配数の変更を伊藤案に基づき協議した。
5. 横浜クラブ用品保管キャビネットの購入を本部事務局斎藤さん(調剤担当)に依頼し、配達の日程を8階平岡さんに連絡してもらうことにした。
6. 湘南・沖縄部へのCS支援金申請書作製を伊藤ワイズに依頼する。
7. ロースター2016/17年版の配布は例会にて行うが、高杉ワイズへは古田ワイズが近日中に持参する。
8. 10月例会卓話は太田勝人ワイズ(世田谷クラブ)に金子会長から依頼済みであることを承認した。11月以降の例会卓話候補者について相談した。
9. ブリテン10月号編集計画。
10. 12月第1例会・忘年会は12月8日(木)で昨年同様会場広東飯店、会費5千円で行う。金子会長が会場予約をする。



担当主事 青木 一弘

### ■熊本地震復興応援 チャリティーランチのご案内

中央YMCA 2階カフェテリア エピキュアでは、毎月14日に、九州地方の郷土料理を取り入れた熊本地震被災地応援メニューを用意しています。ご注文いただくと料金の一部が支援募金となります。ランチを食べて熊本を応援しましょう！

- ・メニュー (第1回 9月14日のメニュー)  
熊本名物 熊本名物!中華風そば「タイピーエン」と「高菜飯」 エピキュア風  
今回は、10月14日(金)です。
  - ・金額 : ¥700 (サイドメニュー・飲み物付き・税込)
- ※復興応援ランチの募金は、熊本YMCAを通じ、被災地支援活動に用いられます。

### ■横浜中央YMCA「ウェルカムフェスタ」のご案内

11月23日(祝)に「ウェルカムフェスタ」を行います。今年度も皆様のご理解とご協力をお願い致します。  
開催日時: 11月23日(祝) 10:30~14:30  
内容: バザーや模擬店などYMCA国際・地域協力募金のための寄付イベントです。

### ■第7回 横浜YMCAリーダーズデイのご案内

日頃、YMCAで活躍しているリーダー・レイパーソン・スタッフたちが一堂に集い活動領域を超えた交流を持つことを目的にリーダーズデイを開催します。昨年は、過去最大の参加者となり、60名近くのユースリーダーが参加をしました。今年度はそれを超える参加を目指しております。是非、ご参加ください。

日程: 10月22日(土)~23日(日) 1泊2日

場所: 富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ  
内容: リーダーズアクティビティ、バーベキュー、研修、報告会等

参加費: 6,000円

交通: 貸切送迎バス(横浜駅北改札口前 8:30集合)  
※自家用車・電車を利用される方は交通費自費となりますのでご了承ください。

申込み: 問い合わせ、申込み希望の方は、各YMCA職員にお申し出ください。

なお、メールでの問い合わせなどを希望される場合は、以下にお送りください。

※永田一誠 (厚木Y)

E-mail: [nagata\\_issei@yokohamaymca.org](mailto:nagata_issei@yokohamaymca.org)

※中台 厚 (オベリン)

E-mail: [nakadai\\_atsushi@yokohamaymca.org](mailto:nakadai_atsushi@yokohamaymca.org)

### 10月例会プログラム

日時: 10月13日(水) 18:30~20:30

場所: 横浜中央YMCA 501号室

司会: 松島ワイズ

1. 開会点鐘および挨拶 ..... 金子会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 ..... 全員
3. 今月の聖句 ..... 金子ワイズ
4. ゲスト・ビジター紹介 ..... 金子ワイズ
5. 食前感謝 ..... 金子ワイズ
6. 食事
7. 卓話 「日本の教育に望むこと」

ーわが子の海外駐在経験からー

太田勝人ワイズ(世田谷クラブ)

8. ビジネス・報告 ..... 金子会長、他
9. 閉会点鐘 ..... 金子 会長

例会報告: 金子ワイズ

### 11月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
5	土		第2回区役員会	Y同盟(四谷)
10	木		ワイズデー	
10	木	18:30	横浜クラブ第一例会	中央Y
23	水	9:00	中央Yウェルカムフェスタ	中央Y
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	中央Y
26	土	15:00	第2回部評議会	中央Y

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは横浜YMCA青木一弘にご連絡下さい。

メール [aoki\\_kazuhiro@yokohamaymca.org](mailto:aoki_kazuhiro@yokohamaymca.org)

電話 045-641-5785